

## 相談分科会勉強会について（案）

### 1 現状

障害者相談支援は、本人のニーズに寄り添い、地域生活への意向や安定した生活に向け、様々な情報提供をはじめ、自己決定に必要な提案、助言、支援を行うという極めて重要な役割を担っている。

そこには、制度・サービスありきではなく、利用者のニーズや望む暮らしを実現するために、地域の社会資源を活用し支援計画を作成・実行するとともに、地域のネットワークや社会資源の改善・開発にむけたまちづくりに努めるといった役目も担っている。

その課題を解決するために、毎月1回相談支援専門員が集まって情報交換や研修を実施している。

また、平成29年8月からは、久留米市地域生活支援協議会のなかの相談分科会としての位置づけで活動し、事務局会議を開催して相談支援における課題を整理し今後の研修等の企画を行っている。

くるめ相談ネットでは、これまで相談支援専門員の質の向上と情報交換等で久留米市の相談支援のネットワークを構築してきた。しかし、個々の相談支援専門員の感性や力量、事業所の経営基盤等に頼るところも多く、財源・人員体制の脆弱さを背景に、結果として相談員のバーンアウトや、セルフプランの減少率の低さといった現状があり、これを解消するために平成30年度前半は、相談支援専門員の知識・技術・価値を高めることに主眼を置き、外部講師を招いての研修等を実施した。

#### <外部講師による研修>

- ① 平成30年8月16日 実施  
講演・グループワーク「連携について」  
講師：倉知延章教授（九州産業大学教授）
- ② 平成31年1月17日 実施予定  
内容：「倫理・価値に基づいたソーシャルワーク実践」  
講師：片岡靖子准教授（久留米大学）
- ③ 平成31年2月21日 実施予定  
内容：「意思決定」  
講師：片岡靖子准教授（久留米大学）

#### <8月16日研修のアンケート結果>

- ① 今回の研修会の感想  
非常に有意義だった・・・8名  
有意義だった・・・・・・9名  
無回答・・・・・・1名

## ② 研修の感想、意見、要望

- ・連携をしていくことを改めて重要だと感じました。「相手の機関のために働く」という考え方を意識しながら、日々の業務を行っていきたい。
- ・連携については永遠の課題、今後のヒントになるアドバイスがたくさんあった。
- ・福祉サービスが中心の支援になっている傾向にあり、倉知先生の柔軟な考え方に共感した。
- ・常日頃、連携が難しいと感じています。相談支援をするなかで関係機関の情報を得ることも課題になっていたので、他の相談員さんからアドバイスをいただきくところできて良かった。

## ③ 今後、研修会で取り上げてもらいたいテーマや希望する講師について

- ・災害時の相談支援の役割について深めていきたい
- ・教育機関との連携が問題のため、教育現場の実態について考えを含め知りたい（教育委員会）
- ・知的障害者の方の性の問題
- ・困難事例
- ・チーム内での MBTI（神谷牧人氏）
- ・インフォーマルなサービスについて

## 2 課題

前前年度のアンケートでは、専門家からのスーパーバイズを希望している相談支援専門員が多かったことから、平成30年度より、外部講師を招いての研修会を企画し、講師謝金と交通費を計上したが、まだ1回しか実施できていない。

だが、そのアンケートでは、上記アンケート結果①②③に記載のように、有意義だったと返答する者が多く、今後も外部講師を希望する回答が得られた。

来年度も継続実施し、相談支援専門員のスキルアップを図っていく必要がある。

## 3 改善の目的

- (1) 障害児・者に対する支援基盤の整備として相談支援専門員同士の情報交換及び相談支援専門員の資質の向上を図る。
- (2) 学習等を深めていくことで、それまで対応することなどがなかったケース等も引き受けることができるよう相談支援専門員のキャパシティの拡充を狙う。
- (3) 相談支援専門員それぞれが持つ事例等を通して地域に潜んでいる課題等を抽出するとともに制度の整備を検討する。

## 4 改善の基本方針

セルフプラン率のさらなる抑制につながる取り組みの一環として、平成 31 年度も引き続き相談支援専門員の要望に沿ったテーマでの研修会を以下のとおり実施し、相談支援専門員のスキルアップを図っていく。

### 【来年度のおおまかな研修内容】

- ① 災害対応・・・勉強会、ヘルプカード、チェックリスト
- ② 地域課題・・・個別課題の吸い上げと施策推進部会への投げかけ
- ③ 勉強会・・・自立支援医療、手当、権利擁護等
- ④ 意見交換会
- ⑤ 分科会の紹介（久留米市生活協議会）

## 5 改善の内容

### （１）外部講師による研修

外部講師による研修会を年 12 回のうち 4 回程度実施予定

研修内容（仮）

- ① 災害について
- ② 地域課題の吸い上げ
- ③ 権利擁護、自立支援協議会等
- ④ 発達障害について

## 6 期待される効果

- ①研修を通した学びによって、個々のスキルアップや計画の策定における相談支援専門員の質の向上。
- ②これまで対応したことのない事例等について議論を重ねることによる、相談支援専門員のキャパシティの拡充。
- ③地域に潜んでいる課題について議論を重ねることによる、必要に応じた施策への提言や、住民の生活ニーズの充足。

## 7 スケジュール

平成 30 年度 方針と内容を決定

平成 31 年度 講師や詳細な内容については、大まかに決定しているが、担当月 3 か月前頃をめどに事務局会議で調整していく。